

■ホームページ等による提案等

1. ホームページのフォーム入力、メール等で寄せられた御提案等 (原文)

意見・提案	住まいの 地区
歩道が、市内のあちこちで狭いので、広くしてください。	旧むつ市
人口減少、少子化、超高齢化社会の現状を考えれば、今現在以上の市街地の拡大化は、むつ市の将来にとって好ましいとは思えない。 また、地球温暖化等の環境問題に対し、負荷の低減を図るためにも、森林地帯の環境保全のためにも、市街化調整地域を設定してみたいかだろうか	旧むつ市
むつ市民が楽しめるような町作りをして下さい。ほとんどの人は、他の市や町（インターネット）で買い物をしています。今のままでは若い人がどんどんいなくなりますよ！	旧むつ市
2点あります。(1)芦崎湾の向かい側は20年かけて都市公園としてほしい。とりあえず風致地区を適用してはどうか。芦崎湾の景観は数少ないむつ市の財産と思う。(2)下北駅周辺は都市計画の網をかけたほうがよい。商業施設を誘致できればよい。	市外
(1)ワークショップ、パブリックコメント・・・一般市民には何のことかさっぱり分からないでしょう。もっと具体例ややり方、他市の様子など参加してくれる市民が多くなるような説明、工夫をされてはいかがでしょう。商店街、青年団、農協、NPO、学校・・・もろもろをもっと巻き込んで。住民参加の意欲が街づくりの一番大切な部分なので。 (2)合併してからずいぶん経つのになぜこんなに見直しが遅れるのですか？なぜ20年後の目標なのですか？都市マスタープランのほかにもどんなマスタープランがあるのですか？それらは実行力はあるのですか？モニタリングはしているのですか？都市計画が街の根幹を担います。ぜひがんばってください。	市外
都市計画の地域は、人が健康で文化的な生活ができる地域となっているが、人が集まってもその地域が都市計画の地域になっていないところがある。たぶん、その地域は、都市計画税もとられていないだろう。同じ市民として不公平感を覚える。人が集まっているところは、都市計画の地域を定めるべきではないか。	旧むつ市
市役所移転後、市役所から北側にある森林地帯は、絶対に市街地化をするべきではないと思う。	旧むつ市
明るい街作りとして、まずは街灯の整備充実をお願いしたい。昨今、エコが叫ばれています。街灯には昔ながらの蛍光管の街灯が多くみられます。夜はただ明かりがあるだけのようには感じられない。電気料の経費も多額かなとも思います。最近では信号機も利用されている発光ダイオードがあり、電気料の節約にもつながっていると、新聞等の報道があります。また、イカ釣り船も発光ダイオードの光に移行していつているようです。夜の街を明るくし、経費節約になり、エコにもつながるのであれば、街灯の整備をお願いしたい。そうすることで非行、犯罪防止にも役立つのではないのでしょうか。	旧むつ市
大間・東通村・むつ市リサイクルの施設により、道路整備が現在になって下北に対し急がれている今下北の玄関ともなる柳町交差点に商業施設・観光施設とも建設できるようにし、下北地域の活性化にしてほしい。	旧むつ市
柳町に商業施設ができると喜んでいた一人ですが、できなくなったことを今知りました。なぜか近所の方々に聞いたいろいろな話でしたが、そんなことはおかしい！私たち市民の知らないところでなぜ？私たちは、買い物に車がないとダメなんです。もっと考えて下さい。	旧むつ市
超高齢化社会の現状を考えれば、現在のむつ市の町並みは、私たち柳町地区にすると中央町地区に商店があり、食品にしても買い物に行けず頼んだりしてこの不景気にタクシー代や委託代とかお金がかかります。同じ市民として私たちの地域でも買い物ができるように柳町地区にも商店を頼みます。	旧むつ市
広報のチラシをみました。大畑には数年前にワークショップで策定したプランをベースにした方がよいと思いますが合併しても大畑ブランドは腐る事はないと思いますので、でも文化に関しては不十分です！今ある文化サークルをベースに拡大する事が賢明策だと思いますので？でもここ数年はだいぶ半減しましたので安心して学べる場を提供してくれる事を望みます。 大湊基地とも連携して策定すべきだと思います。 もし良ければマスタープランで策定したプラン冊子を贈呈してくれば嬉しいです！ 土曜日は都合がありますので参加出来ませんので次の機会に参加する事が出来ればワークショップ等に参加するつもりですので宜しく願います！これからもどうぞ宜しくお願いします！拙い意見で失礼しました。まずは意見迄。	大畑

意見・提案	住まいの地区
<p>スマートシュリンク」という言葉があります。「持続可能な地域の形成を目指す成長管理」を意味するそうです。絶対的な人口減少下で住民の生活の質を維持・向上していくための地域マネージメント手法を総称する概念のことだそうです。地域が積極的に公共事業やサービスの供給を効率化する一方、特異性を見出して地域間の競争力を確保するなど「賢く縮小していかなければならない」ということを意味しているのだそうです。いま、むつの将来が左右される重要な時期です。是非とも広く意見・アイデアを募り、20年以降の住民も納得する計画を策定してください。</p>	市外
<p>むつ下北は環境・エネルギーに特化すべき地域である、と考えています。そのうえで都市計画に関連したことがあります。</p> <p>(1) バイパス道路ができると主交通がそちらにシフトするので旧道の道路機能を今後柔軟対応にしたらどうか、と考えます。例えばお祭りや花見、紅葉の日は車両通行止めとし、サンテラスでむつ湾や釜臥山を見ながら一杯できる道路、子供たちが遊べる道路（歩行者天国）などを試行してはいかがでしょうか。</p> <p>(2) それには以前提示した芦崎湾中心の都市公園化を推進するプランと関連してきます。</p> <p>(3) 環境に配慮した地域交通のアイデアとして、自転車通勤の普及を考えます。まず、移転する市役所の職員がお手本を見せてください。自転車レンタルの補助も付けてください。エコポイントを支給して商店街で使えるようにすると良いでしょう。これは企業の通勤にも使えます。例えば旅行会社や鉄道会社、大型商店が企業に自転車のレンタルを提供し、企業は通勤費支給の代わりに自転車利用度に応じて商品エコポイントやJRチケットや宿泊券と引き換えてあげるなどが考えられます。お父さんが自転車通勤すると子供たちが喜ぶのです。この仕組みはきっと全国的に注目されることでしょう。都市計画的には駐輪場や歩道整備が必要です。</p> <p>(4) 歩道に関しても意見があります。自転車の多い地区の歩道は植栽帯を撤去して自転車通行帯にしても良いと思います。雪国は特に除雪や歩行の障害になりかねません。撤去した街路樹は公共施設の緑化に使ってください。旧市役所も適当なアイデアが無かったら是非地区公園にしてください。</p>	市外

※網掛け部分は第1回策定委員会でも提示した内容です。

2. 要望書により寄せられた御提案等（原文）

意見・提案
<p>田名部地区について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下北全域の中心地として位置付けること <p>～青森県基本計画では下北地域の重要施策として、以下の4点を挙げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下北の総力を結集した下北まるごと観光の推進 ・観光に寄与する地域産業の充実 ・地域の特長を生かした産業づくり ・下北地域の一体感を形成する仕組みづくり <p>これらを実現する為に、下北全域の中心となる田名部地区の活性化を、先ず第一の目標と位置付けること</p>
<p>田名部地区について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田名部祭りを中心とした「饗(あえ)」の場づくりによる活性化を図ること <p>～350年以上の歴史を有する田名部祭りは、「北のみやび」と称され下北半島最大の祭りであるが、祭りを継承する田名部地区の五町内(横迎町、小川町、柳町、本町田名部町、新町)では、居住人口の減少と高齢化が進み、祭りを存続させること自体が難しくなっている。また、祭りの舞台である街が閑散としている現状では、本来の賑わいが生まれてこない。観光客を含め祭りを支える全ての人々が、祭りを通してむすびつくような場作りを位置付けること。一つのつく日に開かれたという市の復活等も検討すること</p> <p style="text-align: right;">※饗：饗応、馳走、ご馳走してのもてなし。</p>
<p>田名部地区について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下北全域の交通絡節点として整備すること <p>～駅に代わる拠点施設の整備や駐車場整備を進め、田名部地区へのアクセス性を高めること。歩行者優先のコミュニティ道路、市街地循環バス、レンタサイクル等により、人や自然にやさしい交通体系の確立を目指すこと</p>

意見・提案

田名部地区について

・商業集積・業務拠点確立のために既存商店街の活性化を図るようにすること
 ～田名部地区は、現段階でも中心となる駅前通り・本町・飲食街ゾーンと、隣接する横迎町沿道・新町商店街周辺・小川町商店街周辺の各ゾーンにより構成され、東西約 1.5km×南北約 1km と、かなり大きな区域となっている。さらに田名部地区西側では、JR 下北駅や市役所新庁舎を基点とする、新たな商業・業務拠点が形成されている。このような現状を踏まえ、全国的にコンパクトな中心市街地形成が求められている中においては、お金では買えない歴史、文化及び伝統が脈々と根付いている既存商店街の活性化を継続し、また、人口の恒常的減少で地域経済が縮小に向かう時代の真っ只中にある当市の行政コスト削減の観点からは、これ以上商業区域を増やさず拡散しない方向性で都市計画づくりを推進すること

大湊地区について

・海と親しめる街づくりを目指すこと
 ～大湊地区は、斗南藩土上陸の地であり、また旧海軍時代は人口 10 万人の街として栄えたように、元来海との関係が深い地域である。市街地と海との連携を強化し、既存施設の有効活用も視野に入れた街づくりのビジョンを示すこと

田名部地区と大湊地区について

・平成 13 年 10 月むつ市が策定した「むつ市中心市街地活性化基本計画」の実現に向けアクションを起こすこと
 ～田名部地区編及び大湊地区編の中心市街地活性化の目標と基本方針は、まだ新鮮な光彩を放ち、現在でも通用するものが多く記載されている。むつ市が策定したものであり、埋もれたままにしないでこれを活かすこと

その他の地区について

・「北のまほろば」の実現
 ～司馬遼太郎は著作「街道をゆく」の中で、この地を「まるやかな盆地で、まわりが山波にかこまれ、物成りがよく気持ちのいい野」と賞賛した。むつ市のもつ資源や可能性を見つめ直し、それを最大限に生かし、育てていくことで、遠くでも行ってみたい地、「豊穡の里海とフード(食・フード)、癒しの下北」を実現できるメッセージを発信すること。

江戸時代の旅行家、菅江真澄が二年半に渡って下北に留まったのは、ここに暮らす人々から温かく迎えられたからだといわれている。「人と自然が輝くやすらぎと活力の大地」を目指す内容であること。

幕末、会津からやってきた会津藩士広沢安任は、谷地頭(現在の三沢市)に洋式牧場を開設し、廃藩置県後は合県運動を進め現在の青森県の基礎を作り、時の大久保利通も一目置く人物であった。この地区で生まれ育った先人の知恵と精神をもう一度見つめ直し、真の豊かさが実現できる地区として全国に誇れる街となること

・国道 338 号横迎町から旧田名部駅前、むつ来さまい館までの都市計画道路 3.5.8 を早期に着工・完成して欲しい
 ～平成 13 年大畑線廃止の際に、前杉山市長が鉄道用地又はこの都市計画路線上のどちらかに必ず道路をつくると公約した(鉄道用地は現在売却済み)。この道路をつくることで交差点となるむつ来さまい館前は、交通の流れがスムーズとなり、商店街の通行量の増が見込め、商店街活性化はもちろん、むつ来さまい館、むつ下北観光物産館及びむつ市イベント広場等の利用向上にも貢献する

・旧田名部駅前通り 3.5.2 から東に旧鉄道用地を突き抜け、国道 279 号バイパスまで整備して欲しい
 ～この道路をつくることで田名部駅通りから国道 279 号バイパスへの車の出入りが容易となり、周辺商店街の活性化はもちろん、本町や柳町への生活道路としても利便性が高まる

・常念寺から田名部神社裏までの明神川を改修し、魚が住める環境作りをして欲しい
 ～流れの緩やかな明神川に、緋鯉、真鯉及び錦鯉を放流し、水辺を散策する観光客に癒しを与える湖光スポットとなり得る

・ジョルノ跡地及びむつショッピングセンター跡地に公共施設又はこれに準ずる施設を誘致して欲しい
 ～昭和 50 年代まで、駅通りは電報電話局や郵便局等があつて人通りも多かった。しかし、公共施設の相次ぐ移転、さらに平成 13 年の大畑線の廃止が追い打ちをかけ、駅通り商店街は空洞化が進み、衰退の一途を辿ってきた。何とか昔の賑わいを取り戻したい

・国道 338 号バイパスと国道 338 号都市計画道路 3.5.4 の拡幅・整備して欲しい
 ～これによって、国道 338 号線バイパスから小川町商店街への車の流入がスムーズとなり、商業の活性化はもちろん、市民の生活道路としての利便性が図られる

・大瀬橋から新小川橋までの田名部川河川敷工事においては、環境を保存しながら親水公園をつくって欲しい
 ～芦が生え、水鳥が生息する河川敷を市民の憩いの場、散歩エリアとして整備することで住みよいむつ市の実現につながる

意見・提案

- ・代官山公園への道路を整備して欲しい

～現在、代官山公園へは車がどうにかすれ違うことのできる 1 本の細い道しかありません。県道恐山線から出入りできるもう 1 本の道をつくることで、観光客の関心も集まり、市民の利用者も増え、またむつ市の元気づくりに役立つ代官山公園でのイベント開催が促進される

- ・小川町住宅街における行き止まり道路を解消して欲しい

～区画整備事業などの手法で行き止まり道路同士を結び、遊休地の宅地化を推進することによって土地の有効利用が図られ、郊外への拡散を防ぎ、中心市街地・商店街の居住者も増えることになる。また、行き止まりの解消は、救急車・消防車の出入りを容易にし、防災面においても大きなメリットがある

- ・むつ総合病院に救急ヘリポートをつくって欲しい

～現在の中央ヘリポートでは、むつ総合病院までの患者の搬送時間が余計にかかり、救急に対処しているとは言い難い。むつ総合病院が下北の中核医療を担い、また原子力事故などに緊急に対応し、より信頼され、利便性の高い病院機能を備えるには、むつ総合病院のすぐ側に救急ヘリポートを設けるべきである。

今回の都市計画マスタープラン策定に当たって、むつ総合病院に隣接する金谷公園及び移転後の旧市役所跡地を総合的に捉え、搬送、即治療といった理想的な医療システムの構築が望ましい

- ・本町(都市計画道路 3.5.1)から小川町(都市計画道路 3.4.4)に抜けるくい違った十字路を改良して欲しい

～交通の流れをスムーズにし、かつ交通の安全のために、現在更地となっている小原家具店跡地を買収し、くい違って交差する十字路を改良することが望ましい

- ・住みよい街づくりのために、円通寺から新町交差点までと、新町交差点から苦生小学校までの歩道の整備及び電柱の撤去をして欲しい

～新町商店会周辺には、病院、寺社及び学校があり、朝夕の通勤、通学及び通院のための交通量が非常に多いので、危険をなくし、交通事故を減らすために歩道の整備及び電柱の撤去が必要である

- ・交通渋滞のない快適な街づくりのために、新大橋と新小川橋付近の道路の拡張工事及び新大橋付近にある二つの信号機の連動性を検証、見直しをして欲しい

～この橋の付近は日中常に車がかかえている。特に通勤、通学の時間帯はひどく、交通の妨げになっているばかりでなく、騒音や排気ガスによって住民が被害を被っている

- ・本町、柳町及び横迎町の道路を新町及び小川町のように拡幅・整備し、また五町内に自転車専用道路をつくって欲しい

～郊外の大型施設の立地などによって人の流れが変わり、全国各地の街が空洞化するようにむつ市も同じようになってきている。本町、柳町及び横迎の住民もご多分に漏れず、郊外に買い物に出掛けるようになってきているが、それをできない子供やお年寄りも沢山いる。この地区は、電柱が立ち、自転車が走る狭い歩道は危険な状況にある。街中で安全に買い物ができる環境こそ、空き店舗を減らし、魅力ある街づくりにつながるので、改善が必要と思われる

- ・市街地、その周辺の国道及びバイパスが通る郊外の景観を整備して欲しい

～むき出しの土、茫々と伸び放題の雑草、無造作に置かれた廃車、そんな荒れた市街地やバイパスが通る郊外は、観光客等にはどう写るだろうか。景観地区を設けるなど、もう少し、むつ市のイメージに気遣いと配慮が必要ではないかと思う。